

科目名	舞踊実習 I～VIII（日本舞踊）	形態	実習	開講期	春・秋
担当教員	西川 文紀	単位	1	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

日本舞踊の習得と、伝統芸能の知識を得る。日本舞踊を習得する為に、着物の着付けを見につける。授業時間内は着物での立ち振る舞いを常に認識しながら動く。その上で、日本舞踊の振り付けや型を通して、美しい立ち姿の習得と、表現の為の身体を追求する。また、着付けに於いては着付ける過程から片付け、舞扇や小道具の扱い方等の心遣いも合わせて学ぶ。その様な心遣い、挨拶等の礼節も共に学ぶ事で、日本文化への気付きや人間力の向上を目指す。

＝履修の条件と学習の方法＝

経験は問いません。男性も履修して頂けます。実技中心の授業の為、着物用具等、忘れ物の無い事。但し、着物用具は、間違えた物を購入される場合もあるので、初回に限り、全てが揃ってなくても良い。初回に指導致します。舞扇を持っていない場合は購入して頂きます。

＝授業内容＝

<春学期>

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。浴衣の着付けに必要な用具の確認。浴衣の着付け。
- 2回 ①扇子づかい。（丁寧に、気持ちが行き届くように扱う事で指先までの 表現の向上を目指す）
②日本舞踊の基礎。（腰の安定や重心移動を意識しながら、立ち、座り、構え、すり足）
- 3回 課題演目の習得。（その1）
- 4回 課題演目の習得。（その2）
- 5回 課題演目の習得。（その3）
- 6回 課題演目の習得。（その4）
- 7回 課題演目の習得。（その5）
- 8回 課題演目の習得。（その6）
- 9回 課題演目の習得。（その7）
- 10回 課題演目の習得。（その8）
- 11回 課題演目の習得。（その9）
- 12回 課題演目の習得。（その10）
- 13回 課題演目の習得。（その11）
- 14回 課題演目の習得。（その12）
- 15回 課題演目の習得。

参考：2016年度の課題演目は、初年度学生 端唄「潮来出島」
次年度学生 端唄「奴さん」「から傘」「八重一重」「松づくし」

<秋学期>

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。浴衣の着付けの応用。
- 2回 扇子づかい・基礎の確認。
- 3回 着物の着付け。
- 4回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。（その1）
- 5回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。（その2）
- 6回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。（その3）

- 7回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その4)
- 8回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その5)
- 9回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その6)
- 10回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その6)
- 11回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その7)
- 12回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その8)
- 13回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その9)
- 14回 基礎をより鍛錬し、課題演目を習得する。(その10)
- 15回 課題演目の発表。(A403 教室にて)

参考：2016年度の課題演目は、初年度学生は 端唄「茶摘み」「潮来出島」
次年度学生 端唄「奴さん」「から傘」「八重一重」「松づくし」
長唄「藤娘」(本番用の小道具を使って踊る)

【初年度課題演目】…基本の構えやスリ足を習得する事を第一の目的とした演目を選定する。

【次年度課題演目】…表現する身体の向上を目指し、振りの意味や感情の流れ、役柄等を考察し楽しめる演目を選定する。

課題演目は、履修人数や男女比などを考慮して、年度ごとに選定します。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

課題演目を踊る期末の発表に積極的に参加し、出席状況、授業態度に問題がない場合はA評価。

欠席・遅刻が多い場合、習得への意欲が感じられない等授業態度に問題がある場合は、B評価とします。

授業態度にいちじるしい問題がある場合は、C・D評価もあります。

＝テキスト(必携)＝

特になし